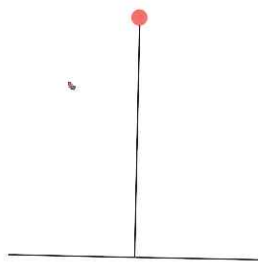




森^{もり}
村^{むら}
橋



小山町 T-66

中部5県の中では最古の鋼トラス橋。富士紡績の創業10年にあたり、同社の恩人である株主・森村市左衛門氏に謝意を表すために、鋼橋を架け森村橋となった。

- 所在地 駿東郡小山町菅沼清水
 所有者・管理者 富士紡績(株)
 建設時期 明治39年(1906年)
 用途・目的 道路橋
 規模 曲弦ブラットトラス 延長39.2m 幅員4.8m

設計者の氏名が刻まれている



69 もりむらばし 森村橋

鉄道/駿東郡小山町小山/鋼曲弦プラットラス橋/明治39年(1906)/設計 秋元繁松/施工 石川島造船所

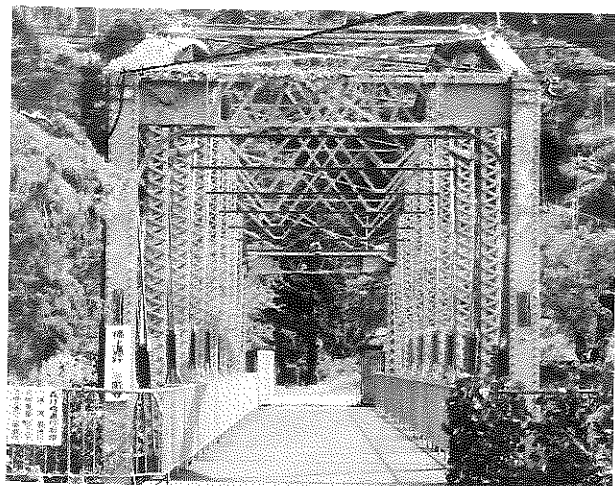
明治維新以後、日本の産業の立役者は、紡績・製紙産業であった。その当時、産業の動力は火力発電が主だった。しかし、英国で学んできた知識人の間で、コストの安い動力として水力発電の評価が高まってきた。紡績を水力でと、株式を募ったところ予想を上まわる反響をよび、水資源が豊かで交通の便の良い所という事で、鮎沢川があり東海道線の通る小山町へ建設された(当時は御殿場線が東海道線)。創立時は、土族の商法で、うまくいかず破滅寸前に追い込まれた。

その時、個人保証を行って経営に助力したり、新株発行に際し、損益を超越して、引き受けてくれた人が森村市左衛門翁であった。

社業の復活隆盛がなった創立十周年に、会社が第一に感謝の意を表さなければならない人は森村翁であった。銅像の建立、記念碑の建設、記念品の贈呈等を検討したが、いずれも拒否された。

当時工場の門前、鮎沢川の橋は粗末な木造橋で、会社が隆盛に向かい、遠からず架け替えの必要があった。そこで、この際鉄橋に架け替え、「森村橋」の名を付して、翁の功労を永遠に伝える事になった。

森村橋は、明治39年(1906)に施工された単径間の鋼曲弦プラットラス橋で、部材長の長い斜材が引張部材、垂直材が圧縮部材となる効率のよい形式となっている。橋長は39.2m、幅員は4.8mであり、中部地方最古の鋼トラス橋と云われている。



森村橋正面

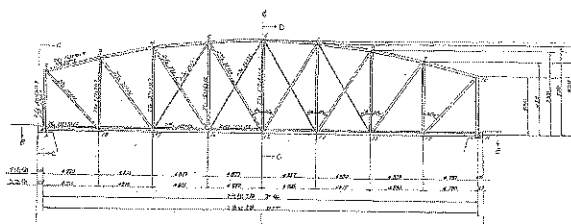
本橋梁の橋門構に照明灯を設置してあり、また端柱に設計者(秋元繁松)や竣工年月が刻まれているなど当時の風合がみられる。

当時は、東海道線小山駅から鮎沢川対岸にある工場に原材料及び製品の輸送のため、橋の中央に軌道を敷設し、トラスの外側に歩道を設けて使用していた。トロッコの廃止に伴い、昭和43年に軌道を取り除き、トラック輸送等に備え鉄板を設置した。現在は、道路橋として舗装されている。

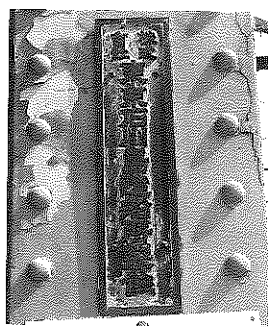
今も森村橋は、山と水の美しい小山溪谷に変わらぬ偉容をほこっている。(臼井 良太)

〈参考文献〉

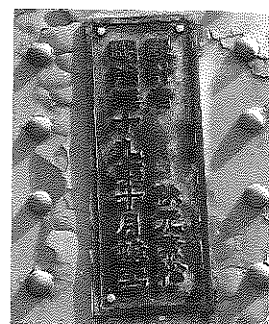
- 1)『富士紡績百年誌』富士紡績(株) 1997年



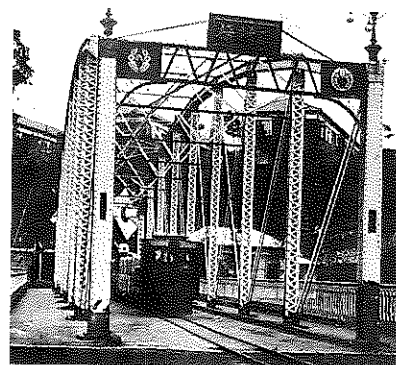
設計図面



銘板



銘板



軌道が敷設された時代の森村橋